

クボデラ SDGs チャレンジ議事録④

ステップ 4 経営へ統合する・継続する

SDGs 推進委員会 2021 年6月

これまでのステップで設定した目標達成に向けた取り組みを事業として推進していくのは一人ひとりの社員です。SDGs 担当者や経営者は、自社で SDGs に取り組む重要性を社内に定着、浸透させる必要があります。SDGs の社内浸透および目標達成については、SDGs 推進委員会が中心となって取り組みますが、社内研修を定期的実施していきます。また、宣言後、年に一度程度 SDGs 目標達成に向けた進捗などの報告・開示を実施します。

経営へ統合する作業は、当社が SDGs へ取り組む根拠や生み出す価値を明確に伝えて社員の理解を得て、目標達成のために各部署と社員個人が果たす役割を具体化し、新たな企業風土・戦略・制度づくりを通して会社全体で目標に取り組む機運を高めながら目標を経営へ統合することを指します。また、多様なステークホルダーとの協働を検討していきます。

協働の方法としては、

バリューチェーン内の関係企業同士で技能・技術・資源を組み合わせ市場に新たなソリューションを提供する(バリューチェーン・パートナーシップ)、同じ業種の企業同士が協力して業界の基準・慣行の改善や共通課題の解決に向けて取り組む(セクター別イニシアチブ)、企業・行政・市民団体が協力して複合的な課題の解決を目指す(多様なステークホルダーのパートナーシップ)が推奨されています。

報告が推奨されている SDGs に関する報告・開示の主な項目は次の通りです。継続して報告・開示することで、当社の SDGs に対する取り組みへの信頼性、本気度、社会的評価などを獲得できます。

- ① 優先課題を設定したプロセス
- ② 企業が設定した優先課題に対する達成度と正負の影響
- ③ SDGs に関する企業の目標と進捗状況
- ④ 目標達成に向けた戦略と実践の内容
- ⑤ SDGs に関する基本的責任をどう果たしているか
- ⑥ 負の影響を対処するための取り組み
- ⑦ 目標達成に向けた自社リソースの活用方法
- ⑧ ステークホルダーとの協働内容と結果